

令和7年度 第6回施設長会 資料4

(川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会)

— 議 題 —

- 1 各プロジェクト委員会の進捗状況等について …資料1
 - (1) 災害プロジェクト委員会について
 - (2) 人材プロジェクト委員会について

- 2 施設長会情報交換会テーマについて …資料2

- 3 神奈川県社会福祉協議会老人福祉施設協議会について …資料3
 - ・第3回委員会 (2/17)
 - ・第23回かながわ高齢者福祉研究大会実行委員会

- 4 第61回関東ブロック老人福祉施設研究総会（栃木大会）について …資料4

- 5 その他
 - (1) 川崎市総合研修センターより …資料5

各プロジェクト委員会の進捗状況について

1. 災害プロジェクト委員会（防災班長会議）

(1) 老人福祉施設関係者等研修会災害対応に関する研修会

① 開催日時

令和8年2月2日（月）午後2時から午後4時30分まで

② 会場

川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）7階 第3会議室

③ 参加者

- (I) 老人福祉施設協議会 20名
 (II) 保育協議会 2名
 (III) 障害者福祉施設協議会 3名

④ 内容

テーマ：災害想定ゲーム「KIZUKI」研修・訓練演習

講師：NPO 法人高齢者住まいの研究会 理事長 寺西 貞昭 氏

⑤ タイムスケジュール

開会 14:00～14:05

挨拶：災害プロジェクト委員会・防災班長会議 稲垣委員長（議長）

講義・演習 14:05～16:30

- ・机上訓練とは？BCP周知のポイント等
- ・災害想定ゲーム「KIZUKI」を使った演習
- ・振り返り

閉会 16:30～

⑥ アンケート結果（回収：25[回収率：100%]）

I) 理解度

とてもよく理解できた	理解できた	普通	やや理解できない	理解できない
12	13	0	0	0

II) 満足度

大変満足した	満足した	普通	やや不満足	不満足
16	8	1	0	0

Ⅲ) 研修についての意見及び感想

- ・災害対策はもっと身近であるべき、もっと自分ごととして取り組むべきだと思いますが、日々の業務の中で優先順位が下がってしまいがち、また難しく考えがちで、なかなか周知、浸透しきっていないと改めて感じました。ゲーム自体は盛り上がりつつも、ハッとさせられたりする場面も多く、とても良い経験になりました。今日学んだことを職場に伝えたいと思います。
- ・ゲームを行うことで実際に災害が起こった時の想定をより自分事として捉えることができた。班の中で、周知が難しいという意見があったが、ゲーム等のような形で入ることで、より職員全体が考えるきっかけになるのではないかと感じた。自分自身も BCP をしっかり理解しているとは言えないため、意識を高めていきたい。
- ・ゲームを行って、判断・対応ゲームとして行ったわけではないが、内容判断には難しい課題も色々含まれていて、その課題を特化することで、色々な気づきもあると思いました。
- ・ゲームを通して起こりうる災害やシチュエーションに対する判断力や決断力を考えるきっかけとなり、施設に戻った後にも職員のとっかかりとして進めやすいと感じました。各施設の話聞くことで、新たな課題に気づくこともできました。ありがとうございました。
- ・ゲームを取り入れて楽しい、そして有意義な時間になりました。
- ・今回の研修で、再度訓練方法、BCP の見直しや検討のきっかけになった。実際、全職員への周知が難しいので、今回の研修で学んだことを、災害をゲーム感覚で考えていきたい。
- ・今までの研修の中でも一番おもしろく参加することができました。話を聞くだけのものや自分の意見を求められすぎる嫌な感じじゃなく、楽しくグループワークができたので、今後もあると嬉しいです。
- ・災害想定ゲームから瞬時の判断対応を考えることは分かりやすいし自分事にもなると思った。BCP については、ファイルに挟み、リーダー層が分かっている…というところもあった。一人ひとりが知っておくと良いこと、分担したら出来ることが多々あるように思った。防災の取り組みを今一度考えていきたい。
- ・あらためて BCP の大切さがわかった。会社としての BCP はあるが、園としてのものはなく、今年作成したばかりなので、また振り返り実りある BCP にしていきたい。
- ・保育施設が少なかったのもっとたくさん居たら良かったと感じた。ゲームを通して様々なことが想定されることも改めて感じる事ができた。BCP の園内共有を上手に行うためにも工夫が必要だと感じた。
- ・ゲーム感覚で災害の研修を受けることができました。これを施設に持ち帰って実際の場面でどう対応するのかを検討していきたいと思いました。
- ・他の施設の方とディスカッションさせていただいて意識が少し高くなりました。職員の命を守ることはハッとさせられました。利用者を守る事しか考えていなかったことを反省しました。
- ・ゲームから始めたので、雰囲気よくグループ内でも話し合いができたと思う。

- ・ BCP、行えていない部分が多々あったのでどのように進めていけば良いかのきっかけになった。
- ・ ゲームを使用しての BCP 訓練だと、難しく考えずに BCP を学び、考えることができた。今後、自施設においても、このようなとつき易い研修・説明が行えるようにしたい。
- ・ ゲームをやって研修だと時間が短いように感じました。1 日研修でも良いと思いました。細かい部分でいうと、講師の方の施設の BCP の内容を教えてほしかったです。
- ・ KIZUKI ゲームは参加者が同じ目的で課題に対応・判断ができるので有意義だと思いました。市社協でも購入されて、各施設が利用できるよう取組まれることを希望します。
- ・ 施設内でどのようにしたら職員全体で考えて行動していくことができるかの参考になりました。すべきことが漠然としてしまうと何をしたら良いか分からないので、ゲーム性を持ちつつやるべきことを先に指定して、その上で行動していく方が分かりやすいと感じました。
- ・ 他施設の方と意見交換が出来て良かった。ゲームから研修が始まって良かった。
- ・ KIZUKI ゲームがとにかく楽しかった。被害想定・場面を浮かべながら対応を考えていくことができ、実践に活かしていけると思う。川崎市内の施設・事業所で取り組めると、防災意識がさらに高まるのでは。ぜひ社協として購入をお願いします（10 セットくらい）。
- ・ とても分かりやすく楽しく研修を学べました。ぜひゲームの貸出ができるようお願い申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・ BCP を施設内で周知していく時に KIZUKI のゲームが導入として良いと感じました。おっしゃっていたように、ゲームで災害対応への関心を高め、その次に詳細な BCP の内容について話ができていくと良いと感じました。
- ・ ゲームで災害対応について見直すきっかけとなりました。施設でも行えたらと思います。他施設の方の話を聞いたのも大変貴重な経験となりました。
- ・ ゲームを用いての訓練が内容の吸収に良いと感じました。周知のツールとして使用できる機会があればぜひ活用したいと思います。
- ・ たいへん重く大事な内容ですが、ゲームを通して身近なものと感じ、あっという間に時間が過ぎました。いつ、どんな形で襲ってくるか分からない災害なので、職員全員が良い意味での緊張感や危機感を持てるよう考えたいと思います。

IV) 来年度以降の研修会で取り上げてほしいテーマ、希望されるテーマおよび理由等

- ・ 周知方法のアイデア、研修の方法などを知りたい。
- ・ BCP をわかりやすく、災害関係を。
- ・ 施設職員も zoom 等で研修に参加できるような研修もお願いしたい（災害研修等）。
- ・ 被災した施設とまではいかなくとも、施設それぞれの取組みを聞いたりしたいです。
- ・ 防災に関する園内研修の取組み、被災からの取組みなど、活かしていることを知りたい。
- ・ 訓練計画の作り方を知りたい。月に 1 度で満遍なく訓練したいが上手く作成できていない。

- ・ 保育所の被災時大変だったことやあったら良かったものなど。
- ・ 実際に被災した施設が、どのように普段通りの生活が送れるまで対応していったか等
- ・ 被災施設の話を知りたい。
- ・ 質疑応答の時間を設けてほしいと思います。
- ・ 被災した施設の話も伺いたいですが、普通の施設で具体的にどう取り組んでいるのか、事例の発表をたくさんの施設から聞けるといいかなと思いました。
- ・ 施設の BCP を用いて、講師の方から具体的な状況と照らし合わせ、今のままではこういうことが起きてしまうという想定を教えてください。

(2) 施設間連携強化の取り組みについて

昨年度（9月）に実施した、横浜市社協高齢福祉部会・災害対策プロジェクト委員会との情報交換会について、今年度も継続して実施。

日 時：令和8年3月2日（月）15時～（約1時間半）

会 場：川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）6階 研修室

テーマ：～ より実効性のある連携に向けて ～

① どんなものなら貸し出せる？どんなものなら借りられる？

- ・ 各施設の強みの共有 ～ 自施設はこういう備蓄が多い、人手なら出せる等
- ・ 過去の体験等から、こんなものがあると良い！
- ・ 相談しやすい関係づくりに何が必要か。

② 連絡の壁、どうやってやり取りできるか？

- ・ 市をまたいだ協力関係の構築には連絡手段が必要…

どうやって助けを求められるだろうか？どうやって情報伝達できるだろうか？

参加者：災害プロジェクト委員会／防災班長会議 委員

横浜市社協高齢福祉部会災害対策プロジェクト委員会 委員

※鶴見区・港北区・青葉区・都筑区の施設にも声かけ

(3) 今後の予定

第5回災害プロジェクト委員会・防災班長会議 / 3月2日（月）13時30分～

2. 人材プロジェクト委員会

第5回人材プロジェクト委員会 / 1月21日(水) 15時～

≪協議概要≫

(1) 地元で活躍する企業との交流会について

【実施概要】

日 時：11月26日(水) 午後2時～

会 場：てくのかわさき1階 会議室

主 催：かわさき若者サポートステーション/コネクションズかわさき

参加委員：和田副委員長、福芝委員、桜寿園職員

参加企業：企業4社

(福祉[桜寿園]、IT[テイクス]、運送・通信[テラモト]、冠婚葬祭等[セレモニア])

求 職 者：13名(20～30代中心、50歳未満対象)

内 容：各社が15分のプレゼン実施後、4グループに分かれて個別面談

【現状と課題】

- 参加者の福祉への関心は極めて低く、13名のうち福祉業界に関心を持つ者はゼロであり、質問もほとんど出ない状況だった。
- 「3K」「体力が厳しい」「休みが不規則」「給与が低い」「精神的に疲れる」といった根強いマイナスイメージの意見が目立った。
- 他業界は、若手の活躍や多様な事業展開を強調し、スタイリッシュなプレゼンで若者の関心を引いていた。セレモニアは、葬儀のイメージを抑え「フォトスタジオ」や「貸衣装」など多角的で魅力的な発信を、テラモトは倉庫・運送業の「力仕事」ではなく、最新の物流システムや幅広い事業展開・働きやすさを強調しており、福祉の仕事とのPR力の差が感じられた。

【今後に向けて】

- 介護の「やりがい」だけでは若い世代には響かない。ペットセラピー、子ども食堂、中庭の取り組みなど、「入り口」としての楽しさや地域との接点もPRする。
- 従来の「介護を知っている人向け」ではなく、未経験の若者に刺さる「インパクト重視」の資料・動画などが必要。ターゲットを分けて資料作成を考えていく必要がある。
- 「社会貢献・地域貢献」や「ワークライフバランス」という若者の価値観・ニーズを捉え、統計データ等を用いて社会に「求められている仕事」であることを論理的に示すことが必要。

(2) 人材定着アンケートについて

① アンケートの目的と実施方針

- **目的**：現場職員のリアルなニーズを可視化し、川崎市への予算要望や施策改善（住宅手当の延長、男性育休促進、ICT 導入支援など）の具体的な根拠資料とする。
- **構成**：「福利厚生」「処遇」「労働環境」の3分野に絞り、各10問程度、計30問程度のコンパクトな設計とする（回答者の負担軽減および回答者数の増加が目的）。
- **手法**：Google フォームを活用し、スマートフォンから手軽に回答できる形式とする。

② 分野別の詳細設問案

I 福利厚生分野（担当：木下委員）

- **重要度の確認**：就職・転職時に福利厚生をどの程度重視するか。
- **具体的重視項目**：社会保険、各種手当（資格・役職・処遇改善）、休暇の取りやすさ、住宅手当・家賃補助、食事補助、退職金制度、資格取得支援、健康支援（腰痛対策等）。
- **身体的負担への配慮**：介護リフト・福祉用具の充実、コルセット支給、休憩室の充実、産業医面談などのニーズ。
- **ライフイベント**：育児・介護・家庭事情への配慮が職場選びに与える影響。
- **メンタルケア**：相談窓口の有無、ハラスメント対策、定期的な面談の重要性。

II 処遇分野（担当：和田副委員長）

- **仕事への達成感と自信**：日々の業務終了時の達成感や、後輩への指導に対する自信の有無。
- **評価の納得感**：自身の仕事が適切に評価されていると感じるか。
- **働く原動力**：休み、仲間、家族、給与、評価、自信のうち、何が最も大切か。
- **現場のフォロー体制**：介護職員以外（介護助手、外国人材、ICT、ボランティア等）によるサポートの現状と、それらをどう充実させるべきか。
- **将来のキャリアパス**：現状維持か、リーダー・管理職やケアマネジャーを目指したいかといった意向。

III 労働環境分野（担当：伊藤委員）

※作成中

③ 自由記述項目による「現場の本音」の収集

数値化できない課題を抽出するため、自由記述の質問項目を設ける。

- 過去の職場で感じた福利厚生面での不満。
- 「こんな制度があれば長く働きたい」と思えるポイント。
- 介護業界全体を盛り上げるためのアイデア。

④ 行政への提言に向けたポイント

- 住宅手当の拡充：川崎市の現行補助期間（3年）に対し、現場からは「5年への延長」を求める声が強いため、アンケートでその必要性を裏付ける。
- 男性の育休促進：ライフイベントへの配慮に関する設問を通じ、法人への助成制度などの新設を働きかける材料とする。
- 既存施策の周知：川崎市が既に行っている施策の一覧をアンケートに併記し、現場への浸透度も同時に把握する（高齢者事業推進課よりデータをもらう）。
→もらったデータをアンケート班で共有する。

(3) 介護の仕事紹介動画について

① 介護の仕事紹介動画の試写

吉野委員により作成された約1分30秒の動画を試写。老人ホームの種類、チームケア、介護補助の役割、働き方の多様性などを網羅した内容となっている。

限定公開 URL：https://youtu.be/jaciuAC_suA

② 具体的な修正事項

I) ターゲット別の構成案（若者層へのアピール強化）

- 課題：現状の動画は全世代向けで情報量が多く、特に関心が低いとされる若者には「やりがい」の訴求だけでは響きにくい。
- 修正案：ターゲット別オプション→この動画を「コア（基本）」としつつ、ターゲット別に数パターンの「つかみ（導入部）」を作成する。転職希望者向けと20代向けでは視点が異なるため、入り口を使い分ける。そのためにサービス紹介（コア）をもう少しコンパクトにする。

II) 「営利・非営利」等の表現および内容の適正化

- 課題：老人ホームの分類における「営利」「非営利」という言葉は、一般の人（特に未経験者）には理解しづらく、特定の法人形態への偏ったイメージを与える懸念がある。
- 修正案：
 - ・用語の変更：「非営利／営利」という表記を、「社会福祉法人・医療法人」と「株式会社など」という分かりやすい表現に改める。
 - ・中立性の確保：法人ごとの良さ（公益性、サービスの多様性など）があるため、排除や否定をするのではなく、公平な情報提供を行う。
 - ・制度への対応：古い名称である「介護療養型医療施設」を、「介護医療院」に修正する。

Ⅲ)「ケアの心」の言語化

- 課題**：「ケアの心」という表現を、より具体的で温かみのある言葉にしたい。
- 修正案**：パワーポイントやナレーションにおいて、「気遣いと思いやり」という言葉を強調する（重要箇所として赤字等で装飾）。「気がかり」という言葉は適さない。

Ⅳ)インタビューの充実

- 家族の視点**：入居者や看取りを経験した家族のインタビューを追加する（約2分追加で計13分程度を想定）。誘導的にならないよう配慮しつつ、「頼りになった」「この施設で良かった」という感謝の声を反映させたい。
- 職員のリアル**：実際にシフトを作成しているリーダー層が、休暇の取りやすさや資格取得支援について語ることで、実情に即した安心感を伝える。また、セカンドキャリアの職員の声も反映させる。

③ 今後の活用とブラッシュアップ方針

- コンパクト化**：前半のサービス紹介部分は、長くなりすぎないようにもう少しコンパクトに整理する。
- ハローワーク等での活用**：ハローワークの待合場等での自動再生用や採用説明会など、使用シーンに合わせて微調整を行い、3月の完成を目指す。
- 若手獲得への意識**：20代・30代の職員がいないことは法人の存続に関わるため、若者が「ここなら先輩がいて働けそうだ」と思えるインパクトのある内容に仕上げる。
- 決定事項**：
 - ・「営利、非営利」の表記を「社福・医療、株式会社など」に変更。
 - ・「ケアの心」を「気遣いと思いやり」に表現変更。
 - ・家族インタビューを撮影し、吉野委員が編集。最終版を作成。

(4) ハローワーク川崎北『オンライン施設見学会』について

ハローワーク川崎北から依頼された「オンライン施設見学会」の実施方法と今後の対応について協議。

① 日時・構成の変更

- 日時**：2月17日（火）14時～（約1時間）
- 構成**：当初は「施設2箇所のライブ中継」+「職員・施設長との質疑応答」を予定していたが、HW側より「生中継は不可」との強い要望があり、事前に撮影・確認済みの「動画視聴」+「質疑応答」の形式に変更となった。

② ライブ中継不可の理由

●HW 川崎北：過去の実施時、入所者が麻雀（全自動雀卓）をしている風景が映り込み、それが「適切ではないのではないか」との指摘があった。また、壁への掲示物等による個人情報漏洩のリスク等を懸念している。

⇒「麻雀は認知症予防や日常の楽しみ（健康麻雀）であり、隠すべきことではない。生活の場なのでそうした娯楽が映っても問題ない。古いイメージで縛りすぎではないか。」

→HW 側の検閲が厳しく、当日トラブルになるリスクを避けるため、録画動画の使用はやむを得ない。

③ 使用動画の選定トラブル

●既存の紹介動画（みんなと暮らす町の施設紹介動画）を提案したが、HW 側より「幸区（南部）の施設なので、川崎北（北部）のイベントには相応しくない」と却下された。

●今後の対応：

- ・北部エリア（中原区以北）にある施設の動画を撮影する方向で調整。
- ・特に人材バンクで作成した「生田広場」の職員密着動画（調理風景等）を軸に検討する。

(5) NEC ライフキャリアについて

NEC の定年退職予定者に対し、福祉業界への再就職を促す「セカンドキャリア支援」を NEC のキャリアカウンセラーと人材バンクで検討。運営委員も参画しているため進捗状況を報告。

① 事業の目的と進捗

●目的：福祉業界を知らない大手企業（NEC）の社員に対し、社会貢献や地域との繋がりを軸としたセカンドキャリアの選択肢を提示する。

●現状：まずは社員の相談に乗る「キャリア相談員（約 25 名）」に福祉業界を理解してもらう必要がある。

●2月12日：相談員向け説明会を実施。

●1月30日：NEC 代表者 2 名が等々力を見学。現場のリアルを見学してもらう。

② 今後のスケジュール

●3月10日：社員向けのオンライン説明会を実施。

- ・昼休憩の時間を利用したタイトな進行（約 30 分）
- ・人材バンクによる概況説明（5 分）、高齢分野の説明（10 分）、障がい分野の説明（10 分）、質疑応答（5 分）で構成
- ・スケッターなど、ハードルの低い参加方法も紹介。

③ 期待される人材像

- 元部長クラスなどマネジメント経験者は、プライドの高さが課題になることもあるが、一方で「人の役に立ちたい」という意欲が高い。
- 運転、事務、施設修理、あるいは地域との調整役など、直接の介護職以外でも活躍できる可能性が高い。
- 実際に再就職して成功している NEC の OB の事例動画などを活用し、普及を図る。

(6) 今後の予定

第6回人材プロジェクト委員会 / 3月18日(水) 15時～



介護の仕事って？

～人を支える喜び～



社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会
施設部会 老人福祉施設協議会
人材プロジェクト委員会

老人ホームの種類

要介護3～5の人が
入居

社会福祉
法人
医療法人

株式会社
など

要介護者向け

- 特別養護老人ホーム
(生活を支える施設)
- 介護老人保健施設
- 介護医療院
- 介護付き有料老人ホーム
- 住宅型有料老人ホーム
- グループホーム

自立した シニア向け

- ケアハウス
(軽費老人ホーム)
- サービス付き
高齢者向け住宅

高齢者福祉の様々な事業①

特別養護老人ホーム（入所）

… 介護を必要とする方の生活の場



ショートステイ（短期入所）

… 家で生活する介護を必要とする方が短い期間だけ施設に宿泊するサービス



高齢者福祉の様々な事業②

デイサービス（通所介護）

… 日帰りで施設に通って、食事や入浴、体操等を楽しむサービス



ホームヘルパー（訪問介護）

… 食事や入浴の介助、買い物や掃除の援助等を提供するサービス



高齢者福祉の様々な事業③

この他にも複数の事業を提供している施設がある

ケアマネジャー（居宅介護支援）

… 家でどんな介護サービスを受けるか計画を立てる専門職



地域包括支援センター

… 地域で暮らす高齢者に関する総合相談窓口

総合的な相談の支援

権利擁護



ケアマネジメント支援

介護予防ケアマネジメント



ご利用者を支える職員たち

報・連・相、情報共有

専門職は専門的な視点と力を発揮して、専門職以外の職員とも連携しながらご利用者の生活を支えている。



その他にも・・・

生活の場だからやることはたくさん…

身だしなみ

着替え

移動

口腔ケア

調理

受診同行

食事

運転

入浴

外出

洗濯

服薬

掃除

トイレ誘導

ティータイム

食器を洗う

レクリエーション

コミュニケーション



介護補助（介護助手）の大きな役割

「介護の仕事に少し興味はあるけど、資格をもっていないから働けないのでは…？」

そんなことはありません！

確かに

食事の介助や入浴の介助等、身体に触れる介護の仕事はヘルパー（介護職員初任者研修）や介護福祉士の資格が必要だけど…

それ以外にも仕事はたくさんあります！

例えば…

話し相手

趣味の手伝い

運転（送迎）

掃除

ベッドメイキング

入浴準備

洗濯

備品の準備

介護補助（介護助手）のお仕事の様子



職員の働き方も様々！

施設の介護職は利用者の暮らしを24時間・365日
切れ目なく、シフト制で支えています

働き方は様々

フルシフト

早番・日勤・遅番・夜勤の組み合わせ

※土・日・祝日含む

状況に
合わせて

夜勤のみ

早番のみ

遅番のみ

短時間パート

夜勤なし

時間は
施設によって
違います

他にも・・・

朝・夕のみ

※デイの送迎ドライバー

週3日

1日4時間

等々

介護の資格でキャリアアップ

資格は働き
ながらでも
取れます

施設によっては
資格取得の支援
もあります

資格

- ① 介護職員初任者研修
- ② 実務者研修
- ③ 介護福祉士
- ④ ケアマネジャー

一日の主なタイムスケジュール

時	6	8	10	12	14	16	18	20		
特 養	モーニングケア	食事介助・服薬介助 食事準備・配膳	片付け・口腔ケア	入浴介助	食事介助・服薬介助 食事準備・配膳	片付け・口腔ケア	リハビリ・レク・ 体操・趣味の時間	おやつ・お茶	片付け・口腔ケア 食事介助・服薬介助 食事準備・配膳	ナイトケア
デ イ		送迎	入浴 レク・体操 趣味の時間	昼食	レク・体操 趣味の時間	リハビリ	おやつ・お茶	送迎		

基本的な生活の流れは上記の通り。更に、移乗や移動、着脱、排泄、整容等々のケアがご利用者の心身の状態に合わせて行われています。その他、間接業務として環境整備や記録、職種間の協議（カンファレンス等）、研修等も行われています。

一日の過ごし方はご利用者の心身の状態により様々

特養の一日①

○ モーニングケア
(洗面・整容)



○ 食事・配膳風景



特養の一日②

○ 口腔ケア



○ 入浴



特養の一日③

○レク・体操



デイサービスの一日①

○送迎



○レク・体操



デイサービスの一日②

○ 入浴



○ 食事・配膳



介護の仕事で大切なこと

知識

ケアの心

技術

知識や技術
も大切だけど…

「気遣い」と「温かい心」が柱

ご利用者が求めていること

心身の健康と生活の **安心・安全** が守られ、
自分らしく人生を送り、**最期まで「自分らしく生き抜くこと」**
を支えてくれる人を必要としている



『**支援**』とは単にできないことをしてあげる
のではなく、
ご利用者が**自身の力を使って行動し、選択し、**
自己決定できるようにすること

ご家族からの声

ご家族のコメント動画

職員の声

職員のコメント動画

ご利用者の人生の最終章に

**「生活の場で支える意味と
価値のある仕事」を**

私たちと一緒に**「協働」**して
みませんか？

情報交換について

1 情報交換について

施設長会の際に、会員施設同士で情報交換、意見交換が出来る時間が限られており、平成30年度より施設長会と合わせて実施している。

老人福祉施設「協議会」という名のとおり、施設同士等で情報交換、意見交換が出来るテーマを設け、設定テーマに基づく30分程度（目安）の情報交換を実施します。

(1) 会員施設から情報交換のテーマを募集

〔情報交換のテーマ例：看取りの実施方法、加算の取得状況、職員の雇用形態 等〕

(2) 正副会長等会議において、施設長会での情報交換テーマを検討します。

(3) 施設長会の開催通知に、情報交換の設定テーマを記載し各施設へ連絡。

各施設には必要に応じて資料等をご用意いただきます。

2 令和7年度第6回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：「令和8年度報酬改定を見据えた医療・介護連携パッケージへの対応と意見交換」

内容：医療ニーズへの対応力強化と「看取り」の体制、報酬改定を見据えた「情報共有のデジタル化」、リハビリテーション・口腔・栄養の一体的取り組み 等

3 令和7年度第5回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：「かわさき健幸福寿プロジェクトの取り組み、全国老人福祉施設協議会」

内容：具体的な成功事例（どんな目標を設定し、どんなケアを行い、どんな結果がでたか）の共有。全国老施協の取り組み等について質問・意見。

4 令和7年度第4回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：「行政との意見交換会」

内容：川崎の高齢者福祉の未来を明るくするために、現状困っていること、相談したいこと、協働したいこと等について建設的な意見交換を行う。

5 令和7年度第3回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：「10月の施設長会で行政に聞いてみたいこと、相談したいこと」

内容：10月の施設長会の情報交換会は行政との情報交換を予定しています。川崎の高齢者福祉の未来のために、相談したいこと、協働したいこと等建設的な話し合いにすることができる内容を検討します。

6 令和7年度第2回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：「食材料費・水光熱費等の高騰による影響、熱中症対策の取り組み」

内容：米を含めた食材料の高騰に伴い発生している課題

6月1日から義務化された熱中症対策への体制整備や取り組み

7 過去の情報交換会テーマ一覧

【令和4年度】

6月15日	施設におけるコロナ対応について～第6波終了の今、第7波に備えて～
8月25日	新型コロナウイルス第7波における各施設の課題、問題点、各施設との連携方法
10月19日	I C T機器の導入について
12月21日	【中間報告】第3回神奈川県特養実態調査（川崎市版）について
2月15日	施設運営における補助金の有効活用について～大規模修繕・コロナ対策など～

【令和5年度】

4月19日	災害について（各区の防災班長・副長について）
6月21日	新型コロナウイルス5類移行に伴う対応の変化について
8月23日	派遣職員と人材紹介事業所について
10月18日	派遣職員と人材紹介事業所について～part 2～
12月20日	容態急変等による救急対応や看取りの現状について
2月21日	人材確保・災害対策・感染対策・事業所契約・利用者トラブル等、各施設で今年度一番対応に苦慮した事例について

【令和6年度】

4月17日	介護保険法の改正と報酬改定により示された国の方向性に特養はどう取り組む必要があるのか
6月19日	経営政策研究ワーキングで協議した内容（人材育成）について
8月28日	介護報酬改定を受けて取り組みが変化したことや新たにに取り組むようになったこと
10月16日	物価高騰に伴い事業者との関りで困っていること、不安に感じていること
12月18日	物価高騰・人材確保・人事管理等の対応で施設長として悩むこと
2月19日	各施設で今年度一番対応に困ったこと

令和7年度 神奈川県社会福祉施設協議会施設部会老人福祉施設協議会
第3回委員会

日 時：令和8年2月17日（火）午後1時～午後2時30分
会 場：かながわ県民センター12階 第2会議室

挨拶：西山会長

議事進行：西山会長

■議題

- 1 令和8年度事業計画ならびに収支予算（案）について
→ 県社協より説明。1週間の意見出し期間を設け、3月の総会に諮る。※資料割愛

- 2 課題別部会について
→ 県社協より説明。各部会担当副会長より補足説明。
（施設運営：加藤副会長 人材確保：白井副会長 災害対応：前田副会長）
加藤副会長より、「特養入所申込者調査への回答に協力いただきたい。現時点で県内447の特養のうち96件の回答をいただいている。入所待機者の実態を行政に伝えるとともにメディア等を通して世間に発信し、誤った印象を拭っていきたい。」と説明。
⇒調査機関を3月13日（金）まで延長。

- 3 高齢者福祉施設 PR 委員会について
→ 県社協より説明。担当の大久保副会長より補足説明。

- 4 令和8年度第2階総会・研修会について
→ 県社協より説明。
日 時：令和8年3月3日（火）
 「総 会」午後1時30分～午後2時30分
 「研修会」午後3時～午後5時
会 場：神奈川県社会福祉センター4階
議 題：令和8年度事業計画および収支予算（案）について
 課題別部会について
 高齢者福祉施設 PR 委員会について
 かながわ高齢者福祉研究大会事業の進捗状況について
研修会：テーマ 「2040年を見据えた『福祉 AI』戦略セミナー ～ 安心・安全な導入から、現場を変える業務効率化まで～」
 講 師 株式会社藤井経営 代表取締役 藤井潤氏
 定 員 100名

- 5 各ブロックの取組状況について
→ 各ブロック事務局より説明（割愛）

課題別部会ならびに高齢者福祉施設PR委員会の進捗状況と今後の展開について

部会名	進捗状況	今後の展開
<p>【施設運営】 各ブロックにおける施設運営実態や運営上の課題等を把握するとともに、喫緊の課題への対応や介護報酬改定に向けた全県協働での訴求活動を行います。</p>	<p>①令和7年9月5日(金)オンライン ・PwC コンサルティング合同会社 東海林氏と加藤副会長との顔合せ</p> <p>②令和7年9月16日(火) オンライン ・特別養護老人ホームの入所申込者調査について、PwCコンサルティング合同会社 東海林氏と打ち合わせ</p> <p>③令和7年11月17日(月) オンライン部会 ・特別養護老人ホームの入所申込者調査について内容・進め方の確認、各ブロックの取組状況の確認。</p> <p>④令和8年2月2日(木)～2月27日(金) アンケート調査実施 ・令和7年度特別養護老人ホーム入所申込者調査を実施 ※別紙参照</p>	<p>◆各ブロックとの連携確認</p> <p>◆調査のまとめ</p> <p>◆調査の活用方法の検討</p> <p>◆令和8年度以降の調査検討</p>
<p>【人材確保】 福祉人材の確保・育成・定着等について、各ブロックの実態や取り組み状況を共有すると共に、人材確保に関する関係機関・団体との連携を図りながら法人・施設単独では実施が難しい取組みについて全県協働による事業の検討を行います。</p>	<p>①令和7年8月7日(木)対面 ・(株)インディードリクルートパートナーズの人材定着アンケート調査確認</p> <p>②令和7年11月7日(金) ハイブリッド部会 ・採用定着力強化セミナー内容精査、各ブロックの取組状況の確認</p> <p>③令和7年12月10日(水)採用定着力強化セミナー開催 ・講師：(株)インディードリクルートパートナーズ 坂本宗鷹氏 参加者：15名</p>	<p>◆各ブロックでの連携、情報共有</p> <p>◆高齢者福祉施設 PR委員会との連携</p> <p>◆人材確保・育成・定着に関する各種関係機関・団体との連携</p>
<p>【災害対応】 大規模災害に対応し、利用者の生活を守り、老人福祉施設としての専門性を地域で発揮していくために、各施設単位での自助の取り組みを確立できるような研修会の検討等を行うとともに、ブロック間の連携、ネットワークづくりおよびかながわ災害福祉広域支援ネットワークとの連携を推進します。</p>	<p>①令和8年1月19日(月) ハイブリッド部会 ・最新の災害対応の情勢について共有(発災時の共有システムの位置づけの共有、横の連絡体制について検討)</p> <p>・神奈川 DWATについて確認(法人・施設の加入数増えないことの課題について検討)</p> <p>・各ブロックでの取り組み状況について意見交換</p> <p>②令和8年3月●日(●) 第2回部会 ・令和8年度の部会の運営の方向性確認</p> <p>・各ブロックでの取り組み状況について意見交換予定</p>	<p>◆各ブロックでの連携、情報共有</p> <p>◆災害対応に関する最新の取り組み発信</p> <p>◆研修会等の検討</p>
<p>【高齢者福祉施設 PR】 高齢者福祉施設 PR委員会を通じて、福祉・介護の仕事を知る機会、イメージアップにつながる機会づくりやPR・周知方法の工夫等について、対象を整理しながら全県での取組みについて検討を行います。</p>	<p>①令和7年8月18日(月) 学生・タウンニュースとの打ち合わせ (駒沢大学 3名)</p> <p>②令和7年9月18日(木) 学生・タウンニュースとの打ち合わせ (関東学院大学 1名)</p> <p>③令和7年9月26日(金) 学生・タウンニュースとの打ち合わせ (関東学院大学 1名)</p> <p>・取材内容や施設の学生の意向を確認して、どの分野の取材を希望するかを確認</p> <p>・取材方法や記事執筆に関するレクチャーを実施</p> <p>④令和7年10月27日(月) 第22回大会表彰・取材(シャローム)</p> <p>⑤令和7年10月30日(木) 第22回大会表彰・取材(横須賀老人ホーム)</p> <p>⑥令和7年11月28日(金) 第22回大会表彰・取材(相模原市高齢協(蒼生会モモ))</p> <p>・第22回大会の優秀賞の表彰にあわせて、学生による取材を実施</p> <p>⑦令和7年12月16日(火) ホームページ打合せ ・HPの作成委託業者との打ち合わせ</p> <p>⑧令和8年2月時点 記事の執筆・校正 ・学生による記事の執筆とタウンニュースによる校正により、記事執筆中</p>	<p>◆ホームページの内容確認</p> <p>◆周知・PR方法の確認</p> <p>◆ホームページ更新作業指示</p>

特別養護老人ホーム
施設長 各位

神奈川県社会福祉協議会老人福祉施設協議会
会長 西山 宏二郎
神奈川県高齢者福祉施設協議会
会長 加藤 馨
横浜市社会福祉協議会高齢福祉部会
会長 西山 宏二郎
川崎市社会福祉協議会老人福祉施設協議会
会長 白井 裕一
相模原市高齢者福祉施設協議会
会長 大久保 祐次

『令和7年度特別養護老人ホーム入所申込者調査』回答へのご協力のお願について

日頃より本部会活動に格段のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、特別養護老人ホームへの入所待機者については、「依然として多くの方が待機している」という一般的なイメージがありますが、一方で、稼働率が低下している施設もございます。

入所申込者の実態を正確に把握し、行政や関係機関等に実情を示すための基礎資料とすることを目的として調査を実施いたしたく、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

調査に関しましては、県内の特別養護老人ホームのデータを収集し、調査の精度を高めるため、神奈川県社会福祉協議会老人福祉施設協議会が中心となり、県域、横浜、川崎、相模原の4つのブロックの高齢関係の部会協議会との連携し、調査を進めることになりました。

ご多忙の折、誠にお手数ですが、来る2月27日(金)までにご回答くださいますようお願いいたします。

なお、回答および集計の迅速化のため、可能な限りオンライン(グーグルフォーム)にてご回答をお願いしておりますが、オンラインによる回答が難しい場合は、別紙の調査票に記載のうえ、メール添付にてお送りくださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

1. 調査対象 神奈川県内の特別養護老人ホーム
2. 調査期間 令和8年2月2日(月)から2月27日(金)まで
3. 回答方法 **3月13日**

(1)オンライン(Google フォーム)

・調査票 URL <https://forms.gle/T9NSNpk6fjyKGpXz7>

(2)メール

・メールの件名に「特養アンケート回答」と入力のうえ、調査票を添付し、事務局(sisetu@knsyk.jp)へ送信ください。

4. その他

・本調査の結果は、部会・協議会の今後の活動および提言・要望活動に使用するものであり、個別の施設・事業所名の記載、公表はいたしません。

<事務局> 神奈川県社会福祉協議会 福祉サービス推進部福祉サービス推進課(篠田)
電話045-534-5662 FAX045-312-6302 メール sisetu@knsyk.jp



令和7年度特別養護老人ホーム入所申込者調査

施設名 _____

担当者名 _____

連絡先 _____

1. 貴施設について

(1) 所在市区町村

(2) 施設の居室種類と入所定員

従来型多床室 _____ 名

従来型個室 _____ 名

ユニット型個室 _____ 名 合計 _____ 名

(3) 併設ショートステイの状況

ショート年総定員数 _____ 名

(4) 前年度の退所者数 _____ 名(うち死亡による退所者数 _____ 名)

2. 入所申込等について

(1) 入所申込者数(令和8年1月31日現在) _____ 名

(2) 入所申込後の本人状況の確認について

定期的を実施している。 → _____ 年に _____ 回実施

不定期に実施している。 → 直近では、令和 _____ 年 _____ 月に実施

実施していない。

(3) 直近に本人状況の確認を行った方の数

調査数 _____ 名 回答数 _____ 名

(4) 前年度入所確認をした数 _____ 名

(5) 前年度入所確認時に保留となった理由(該当する項目に数を記入してください)

・ 本人及び家族が在宅や他の施設での生活の継続を希望したため _____ 名

・ 本人が入院中のため _____ 名

・ 本人の医療的ケアのニーズにこたえられないため _____ 名

・ 本人の認知症ケアのニーズにこたえられないため _____ 名

(6) 前年度に申込の取下げがあった数

申込者の死亡による取下げ _____ 名

他施設への入所または入院による取下げ _____ 名

その他 _____ 名

(7) 入所申込者のうち施設としての判断で「すみやかな入所」が必要と考える数 _____ 名

(8) 要介護1、2の入所申込者のうち、施設として特例入所が必要と考える数

要介護1 _____ 名 要介護2 _____ 名

※ 設問(7)、(8)は生活相談員等の判断で記入してください。

第23回かながわ高齢者福祉研究大会実行委員会 報告

○第1回

日時：令和7年12月18日（木）午前10時～正午

会場：神奈川県社会福祉センター 4階

挨拶：西山会長

挨拶：高橋実行委員長

議事進行：高橋実行委員長

■議題

1 第22回大会の振り返り

→ **県社協より資料に基づき説明。**

2 大会テーマ・企画について

→ **県社協より説明。**

大枠のテーマとしては第22回大会と同様。

“2040年に向けた高齢者社会福祉施設の連携で魅力的な地域福祉を！”を発表テーマ例に加える。

介護技術発表・事例発表・エビデンスに基づく研究発表（施設内・業者や学生とのコラボレーションで分ける）の3分野とする。

介護技術発表については技能五輪の評価基準を審査基準に活用する。

3 第23回大会の収支予算（案）について

→ **県社協より第22回大会決算見込み及び第23回大会に係る令和8年度・9年度の予算案について説明。**

4 係別確認事項について

→ **各係（大会運営・研究発表・介護技術発表・協賛企業出展）に分かれ協議**

○第2回

日 時：令和8年2月17日（火）午後3時～午後5時

会 場：かながわ県民センター 3階

挨拶：西山会長

挨拶：高橋実行委員長

議事進行：高橋実行委員長

■議題

1 大会テーマ・企画について

→ 県社協より説明後、協議。

【メインテーマの継続性】

発表題数が限られることや推薦から漏れた施設が再度応募することを考慮し、メインテーマを毎回変えるのではなく、一定期間同じテーマを維持する考えが示されている。

【未来を見据えた長期的な視点】

2040年問題のように、社会福祉法人が解決すべき中長期的なミッションをテーマに据えることで、単発のイベントではなく、継続的に専門性を高めていく方向性が示されている。

●メインテーマ：2040年を魅力的な福祉・介護の未来に変える

●サブテーマ：施設がつながる、地域とつながる、みんなでつながるオールかながわ

2 係別確認事項について

→ 各係（大会運営・研究発表・介護技術発表・協賛企業出展）に分かれ協議

◎第23回かながわ高齢者福祉研究大会

日 時：令和9年7月7日（水）

会 場：パシフィコ横浜3階

◎今後の川崎市老協の動き

・かわさき大会の実施

目的：かながわ大会に向けた各発表のブラッシュアップの機会とする

時期：令和8年12月

第23回かながわ高齢者福祉研究大会実行委員会

役割分担表

		主な内容	責任者	所属 / 氏名		備考
総括	各事務局含人数	<ul style="list-style-type: none"> ・大会全体の統括 ・優秀発表の公表方法の検討 ・マスコミ対応 ・アーカイブ構築の検討 	◎高橋 美智代	弥生苑	☆西山 宏二郎	○各係の責任者が着任します
				陽光の園	★加藤 馨	
				たきがしら芭蕉苑	★前田 卓哉	
				富士見プラザ	★白井 裕一	
				社会福祉法人蒼生会	★大久保 祐次	
				陽だまりの園	◎高橋 美智代	
				けいわ荘	関 紘太	
				ピア市ヶ尾	○内野 恵章	
				おだかの郷	○関口 英志	
			はあとびあ	○小山 陽介		
		顧問	上郷苑	篠原 正治		
大会運営 4人	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・大会の開催要項作成 ・参加受付対応(参加者、発表者) ・当日係員の調整 ・当日の記録 ・アーカイブ構築の検討 	○小山 陽介	富岡ホーム	渡邊 朋成	
				スプリングガーデン瀬谷	石川 友紀	
				ピオラ川崎	見原 啓一	
				はあとびあ	○小山 陽介	
				相模原市社協	秦 玉衣	
研究発表 6人	7人	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表全般の企画立案 ・募集要綱の検討(介護福祉士養成校との連携含む) ・発表内容ブラッシュアップ研修会の検討 ・審査員及び審査基準の検討 ・優秀発表の選出方法の検討 ・アーカイブコンテンツの検討 	○県域	けいわ荘	関 紘太	
				ラポール三ツ沢	鈴木 正貴	
				新横浜さわやか苑	藤野 宏史	
				等々力	岩壁 信行	
				社会福祉法人蒼生会	大久保 祐穂	
				介養協		
				神奈川県高齢協	宮口 恵美子	
介護技術発表 4人	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術発表の企画立案 ・募集要綱の検討 ・評価項目の検討・評価者調整 ・評価者及び評価項目の検討 ・優秀発表の選出方法の検討 ・アーカイブコンテンツの検討 	○内野 恵章	県3		
				ピア市ヶ尾	○内野 恵章	
				多摩川の里	茶園 恵美子	
				東橋本ひまわりホーム	山口 悠斗	
				横浜市社協	黒川 友希子	
協賛出展 4人	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・協賛出展の企画立案 ・協賛企業の募集 ・会場内のレイアウト調整 ・アーカイブ構築のサポート 	○関口 英志	県4		
				わかたけ富岡	藤井 大祐	
				おだかの郷	○関口 英志	
				ケアハウス実の里	北村 和之	
				川崎市社協	鈴木 哲生	

◎印は実行委員長 ○印は副実行委員長 ☆印は協議会会長 ★印は協議会副会長

第22回大会の担当別 振り返り事項

1. 大会運営

No.	項目	22回振り返りと23回大会への検討事項
1	受付・動線 (QRコード)	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラム開始前(9:30~9:59)に来場者の約39%が集中したが、QRコードでの受付導入によりスムーズに行えた。 ・ 発表者と一般参加者の受付が分かりにくく混雑していた。 ・ 受付を終えた参加者で受付前のスペース(313+314の前の通路)に人が滞留してしまっていた。 ・ QRコードの受付がスムーズに行えたため、311+312は使用しなかった。QRコードの読み込み漏れがあり、正確な人数把握が困難である。来場者703名(QR受付625名+当日参加78名)。 ・ エレベーターを上がってからの案内表示が分かりにくく、ロープや案内板で工夫や改善が必要。 ・ 参加者が休憩したり、話したりする場所が不足していた。
2	参加者・参加費	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者が減少傾向にあり、一般の方には「研究大会」という名前であり、ハードルが高いのではないかと。 ・ 参加費が高いとの声があり、参加費について検討の必要がある。 第22回大会の参加費(会員) 会場+アーカイブ8,000円、アーカイブのみ5,000円 →会場のみ6,000円の案を検討する必要があるが、大会の収支と参加人数から、慎重に検討する必要がある。 ・ 紙媒体の広報物(チラシやポスター)を作成して、施設内や駅や行政施設への掲示を検討する。
3	アーカイブ配信	<ul style="list-style-type: none"> ・ アーカイブのみの申込者は合計で14名と少ないため、近隣都県や全国的に周知した方がよい。
4	アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートのQRが当日冊子にしかなかったため、QRコードを会場やホワイエ等に掲示するものがあるとよい。 ・ 回答率を高めるため「たった○秒で回答可能」といった手軽さをアピールするフレーズの追加や、22回大会でアンケート回答者に抽選で配布したAmazonギフトカード(1,000円分)のインセンティブ強化も検討が必要である。
5	SNS	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォロワー数は100人前後であるが、関係者が多く効果的な発信ができていない。 ・ 芸能人やインフルエンサーの活用等、SNSでの発信力を活用する。

2. 研究発表

No.	項目	2 2 回振り返りと 2 3 回大会への検討事項
1	発表者の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> 発表への負担感を軽減し、動機付けを強化するため、ブロック大会・予選会を「育成・支援の場」と位置づけ、テーマ相談会やプレゼン技術研修会などを企画・実施する。 研究発表の質を高めるため、大島武戦士のプレゼン研修を発表資料作成前の早い段階（前年度の秋頃）の実施を検討（発表が決定する前でも良いのではないか）。
2	参加者の期待の多様化	<ul style="list-style-type: none"> 「学術的な質」を求める声と「実践的な内容」を求める声の双方に応えるため、重点テーマについて専門家を招いた基調講演・シンポジウムを導入する具体的な計画（テーマ・人選候補）を検討する。
3	表彰・評価	<ul style="list-style-type: none"> 現行の表彰制度だけでは多様な発表者の動機付けに繋がりにくいいため、参加者投票による「オーディエンス賞」や初発表者対象の「奨励賞」などの新設を検討し、表彰制度の具体案の策定を検討する。
4	係員	<ul style="list-style-type: none"> 係員については、当日係員も含め事前にやることがわからずふたんになったところがあった。選出の時期を早めて、マニュアル等、やることを明確化し、事前に伝えておく。

3. 介護技術発表

No.	項目	2 2 回振り返りと 2 3 回大会への検討事項
1	会場・レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初 1 2 8 席で準備していたが、途中席が足りずに追加し、最大で 1 6 6 席使用した。 ・ 参加者から「会場後方から実演が見えなかった」という意見があったため、ステージの設置や複数モニターの設置、後ろは立ち見にするなど、実演が見やすい会場レイアウト案を具體的に検討する。
2	表彰・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師から適切な評価や指導をしてもらえたので、講師に参加いただき良かった。発表者から「評価基準があった方が目標を立てやすい」という要望があったため、今回お願いした講評者へ評価基準作成について相談・検討していきたい。 ・ 評価を取り入れたうえで、オーディエンス賞、実行委員賞も併せて、最優秀賞を作りたい。
3	アーカイブ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護技術のアーカイブ配信をする方向で検討したいが、配信方法や配信できるかについては検討が必要。 ・ 臨場感のある動画を残すには専門業者への依頼（費用 3 0 万～5 0 万円）が必要となり、方針は大会運営側で検討する必要がある。

4. 企業協賛

No.	項目	2 2 回振り返りと 2 3 回大会への検討事項
1	交流機会の不足	<ul style="list-style-type: none"> 参加者から「企業ブースを見る時間がなかった」という声があり、企業側も交流機会を求めているため、プログラム内の休憩時間を「企業ブース訪問タイム」に設定することを検討する。 出展ブースの法人がないこともあったため、発表の合間やお昼の休憩時間はブースに誰かがいるように案内する。
2	来場者情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> 協賛企業から、交流を促すために来場者の「所属団体名・指名」を大きく記載した名札の導入要望があったため、名札デザイン・仕様変更案を策定し、導入の可否を判断する。
3	協賛案内の早期化	<ul style="list-style-type: none"> 協賛企業からの要望に基づき、企業の予算策定などを考慮し、協賛に関する案内を開催年の1月頃から開始し、募集危難を長めに確保することを検討する。 インスタでも募集要項の記事をあげる（企業も大会アカウントをフォローしているため）。
4	ブース数・レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> エスカレーター前の喫煙所前は配置が良くなかった。受付の方にスペースがあったので、そちら側にずらす。 Bエリアに3～4ブース程度増やせるのではないかな。 ブースの場所により、出店金額を変えても良いのではないかな。特にAエリアの301, 302の前のブースは出展金額を増額しても良い。 301, 302と303, 304を封鎖したのは良かった。結果、人がBエリアに流れた。 昼食会場をBエリア側にしたのも効果的だった。
5	10秒の企業PR	<ul style="list-style-type: none"> 来場者からのアンケートをいただけていないため、評価については分からない。 商品を持ち込めない企業さんが実物を動画で紹介することができ、企業ごとのカラーも出ていて良かったと思う。
6	その他	<ul style="list-style-type: none"> 大会終了後にインスタのフォロワーが増えた。 企業からいただいたブースレイアウト図は、当日企業ブースのところに置いておく（事前準備の際に必要。企業側、実行委員側の双方が共通のもので確認できる）。当日、企業のPR動画を撮影したのはサービスの部分だったが、結果フォロワー数につながったと考える。実行委員の負担はある。SNS担当はつけた方が良い。 担当ごとに引継ぎがあったように思う（メンバーが決まったら）。 試飲や試食ができたなら良かった。 .

新

第22回かながわ高齢者福祉研究大会

～2040年を魅力的な福祉・介護の未来に変える～

2040年問題とは、高齢化と人口減少が進行する中で予想される一連の社会的・経済的問題を指します。

現在2024年から、そう遠い未来ではありません。多岐にわたる問題に私たちは、どのように対応し、これからの福祉・介護の未来を描いたら良いのでしょうか？

2040年は
どんな社会？

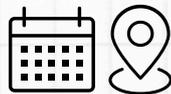
高齢化と
人口減少
が進行

人員や財源
の不足が
深刻化

労働力不足、
生産性低下etc.
多岐にわたる
問題が懸念

これらに正面から
向き合い、考える！

日程・会場 (予定)



令和7年7月2日 (水)

パシフィコ横浜
(3階フロア貸切)

研究発表テーマ



大会テーマ「2040年を魅力的な福祉・介護の未来に変える」に対して、発表テーマ(ジャンル)は特に問いません。

それぞれの施設・事業所でこのテーマに向き合い、考えられることを考察・研究し、エントリーしてください。

実践、取組み、対策のほか...
創造的な「あったらいいだろう」etc.

発表テーマ例

- 2040年問題に対して、**生産性向上**を図るために、どのような取り組みが考えられるか。
- 人材不足が予測される中で、**ICT化**を図り効率的に運営し、適材適所に職員を配置する。
- 処遇改善の一本化**を図り、外国人・高齢者・未経験者・中高年等、多様なキャリアパスを実現する。
- 今までのかかりつけ医との関係を発展させ、**医療との連携**がさらに充実し安心感が増した。
- 2040年を見据えた**認知症ケア**のあり方として求められることは何か。

～今回より新たな大会へ！

神奈川県社会福祉協議会老人福祉施設協議会では、高齢者福祉施設職員による実践活動や福祉のプロを志す学生の研究活動等、県内の高齢者福祉に関わる取り組みの発表を通し、ともに学び合い、かながわの高齢者福祉の最前線を社会に発信することを目的に、「かながわ高齢者福祉研究大会」を開催してきました。

これまで多くの高齢者福祉従事者や学生等の熱意によって積み上げてきた大会の目的・目標を踏まえ、今後の県内の高齢者福祉の発展に必要な要素を考えた「**新たなカタチ**」としてスタートします。

介護技術発表



大会テーマ「2040年を魅力的な福祉・介護の未来に変える」を受けての技術発表となります。2040年の状況を考察したうえで、未来へ向けていかに介護技術の向上及び発揮をしていくかを考え発題してください。

発表テーマ例

- 食事・口腔ケアについて
- 移乗について
- 認知症対応について
- 災害時の避難誘導
- LIFEを活用した食事量アップ
- ICTや生産性向上

大会事務局

(福) 神奈川県社会福祉協議会 福祉サービス推進部
〒221-0825 横浜市神奈川区反町3-17-2
☎ 045-534-5662 ✉ sisetu@knsyk.jp

※各ブロック(県及び3政令市)からの推薦により、エントリーを受け付けます。詳細は各ブロック事務局にお問合せください。

会員施設 施設長 各位

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会
施設部会 老人福祉施設協議会
会 長 白 井 裕 一
(公 印 省 略)

第 6 1 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（栃木大会）での分科会発表者の募集について（ご案内）

日ごろから、川崎市社会福祉協議会施設部会の老人福祉施設協議会の運営及び諸事業の推進につきましては、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、関東ブロック老人福祉施設連絡協議会において、今年 9 月に「第 6 1 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（栃木大会）」の開催が予定されております。

この度、開催地事務局より本大会の分科会発表者の募集がございましたので、次のとおり発表施設を募集いたします。

施設での日ごろの取組や実践、研究を発表する場として、また、日常業務を施設全体で見直すきっかけとして、是非この機会にご応募くださいますようお願いいたします。

1 第 6 1 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（栃木大会）開催日程等

日 時：令和 8 年 9 月 3 日（木）～4 日（金）

〔分科会：9 月 4 日（金）9：00～12：30〕

分科会会場：ライトキューブ宇都宮（JR 宇都宮駅隣接）

2 発表募集テーマ ※本大会は川崎市からの発表テーマは事前指定

第 2 分科会…自立支援（リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養）

第 5 分科会…在宅・デイ

3 募集概要及び応募方法

同封の「第 6 1 回関東ブロック老人福祉施設研究総会 発表施設募集概要」をご参照ください。

4 同封資料

- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| (1) 第 6 1 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（栃木大会） | 発表施設募集概要 |
| (2) 第 6 1 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（栃木大会） | 分科会発表施設応募用紙 |
| (3) 第 6 1 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（栃木大会） | 開催概要（案） |
| (4) 第 6 1 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（栃木大会） | 「分科会テーマの内訳」 |

5 その他

本研究総会の開催詳細につきましては、2 月以降発送の開催要綱のご案内となります。

（お問い合わせ先）

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会
福祉部 施設事業推進課 担当／鈴木

TEL：044-739-8717 FAX：044-739-8737

Mail：shisetsu-dantai@csww-kawasaki.or.jp

第6 1 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（栃木大会）発表施設募集概要

1 発表募集テーマ

第2分科会…自立支援（リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養）

第5分科会…在宅・デイ

※川崎市からの発表テーマが事前指定されています。できる限り、指令された発表テーマでの応募をお願いします。

※テーマの詳細につきましては、同封の「分科会テーマの内訳」をご参照ください。

2 募集施設数

2施設

3 発表内容

発表時間：15分以内

発表人数：複数名での発表可

発表形式：パワーポイントを使用しての発表

4 参加経費の補助

本大会の参加に係る経費の内、次のものについては2名分まで開催地で負担いたします。

○開催地：大会参加費・宿泊費・交通費

5 応募方法及び応募締切

同封の『分科会発表施設応募用紙』に必要事項をご記入いただき、FAXまたはメールによりご応募ください。[申込締切日：令和8年2月25日（水）まで]

6 応募者の選考

老人福祉施設協議会正副会長との協議の上、発表者を決定させていただきます。

7 応募後の流れ（目安）

2月下旬 … 各応募施設への選考結果の連絡

2月下旬 … 資料掲載用の発表要旨の提出（開催地へ）

8 提出及び問合せ先

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設事業推進課 老人福祉施設協議会担当：鈴木
川崎市中原区上小田中6-22-5 川崎市総合福祉センター6階

TEL：044-739-8717 FAX：044-739-8737

メール：shisetsu-dantai@csww-kawasaki.or.jp

★本紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールによりお送りください★

川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設事業推進課 老人福祉施設協議会担当/鈴木宛

FAX：044-739-8737 / メール：shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

【令和8年2月25日（水）必着】

第61回関東ブロック老人福祉施設研究総会（栃木大会） 分科会発表施設応募用紙

【発表テーマ】 ※下記のいずれかにチェックしてください。

- 分科会1：認知症対応/医療・介護連携、看取り 分科会2：自立支援 ※割当
分科会3：経営 分科会4：人材確保・育成・定着
分科会5：在宅・デイ ※割当 分科会6：軽費老人ホーム・ケアハウス
分科会7：養護老人ホーム

施設名		種別 ※○をつけてください
		特養・養護・軽費・ケアハウス・ デイ・その他（ ）
ふりがな		発表者①職種・役職
発表者①氏名		
ふりがな		発表者②職種・役職
発表者②氏名		
連絡先	TEL：	
	FAX：	
メールアドレス		
発表タイトル及び発表概要を下記にご記入ください。（現時点でのご予定で構いません。）		
【発表タイトル】		
【発表概要】		
《発表予定人数： 人》		

《お問い合わせ先》

川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設事業推進課 担当/鈴木

電話：044-739-8717 FAX：044-739-8737

メール：shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

メインテーマ

スマートケアの時代へ
～テクノロジーが支える人間らしさ～

開催期日

令和8年9月3日(木)～4日(金)

会場

ライトキューブ宇都宮 (JR宇都宮駅隣接)
栃木県宇都宮市宮みらい1-20

主催

公益社団法人全国老人福祉施設協議会
関東ブロック老人福祉施設連絡協議会
一般社団法人栃木県老人福祉施設協議会

後援 (予定)

栃木県
宇都宮市
社会福祉法人栃木県社会福祉協議会

大会スケジュール（予定）

<令和8年 9月 3日(木)>

【全体会】

11:30～12:20	受付
12:20～12:50	オープニングアトラクション
13:00～13:55	開会式典 <ul style="list-style-type: none"> ・開会のことば ・主催者あいさつ ・感謝状贈呈 ・来賓祝辞 ・来賓紹介 ・主催者紹介 ・閉会のことば
14:00～14:30	基調報告 公益社団法人全国老人福祉施設協議会 会長
14:30～15:00	行政報告 厚生労働省
15:15～16:15	記念講演（未 定）
16:20～16:30	次回開催県紹介（茨城県）
16:30	終了
18:00～20:00	参加者交流会（全体会終了後）

<令和8年 9月 4日(金)>

【分科会】

8:45～9:00	受付
9:00～9:15	オリエンテーション
9:15～12:25	分科会

（分科会テーマ）

高齢者福祉に関する7つのテーマについて、分科会を開催し、発表・討議される。

関東ブロック老人福祉施設研究総会 栃木大会「分科会テーマの内訳」

分科会名	テーマ項目	発 表 テ ー マ 事 例
第1分科会	認知症対応/ 医療・介護連 携、看取り	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケア ・個別ケア ・家族支援への取り組み ・転倒予防・事故防止への取り組み ・看取りケア ・誤嚥予防の取り組み ・褥瘡等皮膚トラブルへの対応 ・コロナ・感染対策 など
第2分科会	自立支援 (リハビリテ ーション・機 能訓練、口 腔、栄養)	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援介護 ・重度化防止の取り組み ・記録の活用とアウトカム評価 ・健康寿命延伸に向けた総合事業・地域支援事業の取り組み ・口腔ケア ・栄養マネジメント ・機能訓練とリハビリテーション ・アクティビティ・レクリエーション など
第3分科会	経 営	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人戦略（経営・運営） ・経営の合理化・適正化 ・稼働率アップや加算取得戦略 ・2040年を見据えた経営戦略 ・地域における公益的な取り組みの実践 ・物価高騰への対応 ・医療と介護の連携 ・補助金を活用した事業展開 ・社会福祉連携推進法人の活用による経営の効率化 ・地域医療介護総合確保基金を活用した事業展開 ・小規模法人のネットワーク化事業による経営効率化 ・社会福祉法人の利用者負担軽減の取り組み など
第4分科会	人材確保・ 育成・定着	<ul style="list-style-type: none"> ・介護人材採用戦略 ・介護人材育成と定着 ・潜在介護福祉士の復職支援 ・働き方改革とアクティブシニア ・介護職の魅力のを見つけ方と伝え方 ・ユニークな福利厚生、採用方法 ・上司、職員のコミュニケーションの取り方 ・外国人介護人材の受け入れ制度の課題と対応 ・外国人介護人材定着と活用への課題と対応 ・従事者の働きやすい環境づくり ・モチベーションにつながるキャリアパスの形成 ・ロボット導入による業務効率化 ・技能実習・特定技能制度の活用と展望 ・地域と連携した人材確保 など

分科会名	テーマ項目	発 表 テ ー マ 事 例	
第 5 分科会	在宅・デイ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT・LIFE 導入への取り組み ・ 魅力ある在宅サービスと生き残り戦略 ・ 多職種協働による中重度化への対応と重度化防止の取り組み ・ 地域での栄養ケアの実態とフレイル予防 ・ 自立支援・ADL 改善や ICF に基づくケア ・ 相談援護機能を発揮した地域におけるソーシャルワーク活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康寿命延伸に向けた総合事業・地域支援事業への取り組み ・ 機関協働による認知症予防や地域生活課題への対応 ・ 実効性のある BCP の策定と具体的な取り組み (PDCA) ・ 生産性向上による在宅サービスの新たな価値創造 <p style="text-align: right;">など</p>
第 6 分科会	軽費老人ホーム・ ケアハウス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入所者の健康寿命の延伸・フレイル予防 ・ 食べる楽しみと栄養改善に向けた取り組み ・ 認知症ケア、高齢障害、精神障害、慢性疾患（難病を含む）の方への対応 ・ 高齢者の住まい確保に関する取り組み ・ 変わる利用者像への対応と家族との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者確保に関する取り組みや広報戦略 ・ 生活保護や生活困窮者自立支援法等に関する取り組み ・ 医療との連携や看取りの取り組み ・ 地域貢献・地域連携の取り組み ・ 職員の人材確保と育成・定着の取り組み <p style="text-align: right;">など</p>
第 7 分科会	養護老人ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入所者の健康寿命の延伸・フレイル予防 ・ 食べる楽しみと栄養改善に向けた取り組み ・ 認知症ケア、高齢障害、精神障害、慢性疾患（難病を含む）の方への対応 ・ 触法入所者への支援や自立準備ホームの運営 ・ 契約入所や高齢者の住まい確保に関する取り組み ・ 入所者確保に関する取り組みや広報戦略 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活保護や生活困窮者自立支援法等に関する取り組み ・ 医療との連携や看取りの取り組み ・ 地域貢献・地域連携の取り組み ・ ICT の活用や生産性向上の取り組み ・ BCP（自然災害・感染症）の策定と具体的な取組み ・ 経営の適正化や人材確保に関する取り組み <p style="text-align: right;">など</p>

R8関ブロ栃木大会 分科会テーマの都縣市割り当て一覧

	都縣市名	依頼数	第1分科会 【認知症対応/医療・介護連携、看取り】	第2分科会 【自立支援（リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養）】	第3分科会 【経営】	第4分科会 【人材確保・育成・定着】	第5分科会 【在宅・デイ】	第6分科会 【軽費老人ホーム・ケアハウス】	第7分科会 【養護老人ホーム】
1	茨城県	4		○	○	○		○	
2	群馬県	4	○			○	○		○
3	長野県	4		○		○	○		○
4	埼玉県	3		○	○	○			
5	さいたま市	2				○			○
6	千葉県	5		○	○	○		○	○
7	千葉市	2	○				○		
8	東京都	6	○	○	○		○	○	○
9	神奈川県	3				○	○		○
10	横浜市	2			○			○	
11	川崎市	2		○			○		
12	相模原市	1	○						
13	新潟県	3	○		○		○		
14	山梨県	3	○	○		○			
15	静岡県	4	○		○		○	○	
16	栃木県	5	○	○	○			○	○
発表数計			8	8	8	8	8	6	7



令和8年2月配信 福祉職員向け研修のご案内

地域の明日をささえる
福祉の研修



〒210-0024

川崎市川崎区日進町5-1

川崎市複合福祉センター ふくふく2階

TEL : 044-223-6509 FAX : 044-223-6598

開所時間

火曜日～土曜日 9:00～17:00 (受付8:30～)

※日曜日・月曜日・祝祭日・年末年始はお休みとなります



更生保護における司法と福祉の連携

研修番号 A49

日時: 令和8年 2月 27日 (金) 15:00 ~ 16:30
定員: 40名 (先着順)
締切: 令和8年 2月 19日 (木)
受講料: 無料
内容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=161

講師
牧田 奈津子 氏
横浜保護観察所
処理部門統括保護観察官
前田 恵美子 氏
神奈川県地域定着支援センター



お申込み

令和8年度セカンドキャリア研修

これで安心！はじめての介護入門研修

研修番号 SG1

「認知症介護基礎研修」とセットで受講！
介護について学びたい方！介護職に就職希望の方！介護職として勤務し始めた方！

日時: 令和8年 4月 16日 (木) ~ 5月 26日 (火) ※全7日間
定員: 18名 (先着順)
締切: 令和8年 3月 31日 (火)
受講料: 無料
内容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=168



お申込み

第43期 川崎市認知症介護実践者研修

研修番号 NJ1

(講義全6日間+実習4週間)

日時: 令和8年 5月 13日 (水) ~ 7月 1日 (水)
定員: 40名
締切: 令和8年 4月 15日 (水)
受講料: 10,000円 (テキスト代含まず)
内容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=185



お申込み

【研修開催を中止または変更する場合について】

自然災害（地震、台風等）及び事故等が発生した場合や避難所開設等のため、研修を実施しない、または変更する場合があります。その場合には、開講当日の午前8時30分までに研修センターのホームページにその旨を掲載いたしますので、ご確認ください。

総合研修センターホームページ：<https://www.kensyu-c.jp/>